神田外語大学における地域貢献のとりくみ～学生主体の活動例から～

戦略的大学連携支援事業千葉県域
コンソーシアム　公開シンポジウム
2010年12月11日（土）千葉大学

奥島美夏（神田外語大学）

1. 現地調査・実習にかかわる専攻

- 外国語／文化 （通訳、日本・母語学習指導）
- 教育学 （日本語教育、学習指導）
- 文化人類学、社会学、宗教学、地理学など
  （現地調査、参与観察）
- 社会福祉 （生活指導、カウンセリング）
- 心理学 （カウンセリング）
- その他の各種専門教育：技術、機械、農業、法学、医療 など

2. 神田外語大学の特色

- 外国語の単科大学

＜標準＞　英米、中国、スペイン

＜希少＞　韓国、ポルトガル（＊ブラジル）、タイ
ベトナム、インドネシアなど

- 政治経済・社会文化・宗教などの総合的知識

- 留学生・ネイティブ教員

＊近年は多国籍・多文化もつ「日本人」学生も

2. 学生主体の地域支援

- ゼミ・講義から課外活動へ

例1） 幕張チャリティフリーマーケット（幕チャリ）

：企業研究ゼミ発、大学・地元企業・商店会・自治体などの寄付品でキャンパス・フリマ。国際サッカー親善試合や各国芸能公演も

：売上はアジア諸国の自助活動支援プログラムへ寄付

本年度来場:2600人

売上高:151万円

例2）「くいす　にほんご　くらぶ」愛好会

：文化人類学的手法による「インドネシア総合研究」、「地域研究A・B」など発

：関東各地の外国人コミュニティで調査実習（2003年より毎年数回実施）

：市川・八千代などの調査から県庁・県警が支援依頼。2009年度県庁委託事業をきっかけに、外国人学習支援の学生組織を結成

ブラジル人教会の日本語クラス主催

3. 学生の外国人支援活動

① 文献調査＆フィールドワーク
（参与観察、インタビュー、マッピング、市場調査、式典参加など）

② 学習支援（通訳・日本語指導・教科指導）
（八千代市、千葉市、旭市など）

③ 報告書・日誌作成、対象者・自身へのフィードバック

①フィールドワーク：支援の対象を知る

表1：全国の在日・滞日外国人（09末）

総　数	2,186,121人（構成比）
1.中国	680,518 （31.1%）
2.韓国・朝鮮	578,495 （26.5%）
3.ブラジル	267,456 （12.2%）
4.フィリピン	211,716 （ 9.7%）
5.ペルー	57,464 （ 2.6%）
6.米国	52,149 （ 2.4%）
7.タイ	42,686 （ 2.0%）
8.ベトナム	41,000 （ 1.8%）
9.インドネシア	25,546 （ 1.2%）
10.インド	22,858 （ 1 %）

表2:県内主要国籍集団と自治体(09末)

自治体	総数	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	ブラジル	タイ	ペルー	米国	インド	スリランカ	ベトナム
総数	116,958	44,986	18,924	17,662	5,739	5,516	3,525	2,308	1,755	1,470	1,556
千葉	22,570	10,200	4,678	2,643	596	558	328	445	213	168	268
市川	13,587	5,955	1,813	1,516	214	434	338	238	943	228	148
松戸	12,247	5,895	1,944	1,914	130	215	154	156	99	105	258
船橋	11,680	5,780	1,959	1,126	617	290	211	231	79	143	111
柏	6,019	2,308	1,219	889	137	182	133	147	48	82	43
市原	5,260	848	816	1,609	658	367	308	58	26	15	46
八千代	4,205	795	415	530	1,189	82	488	48	22	27	262
浦安	3,615	1,447	640	363	73	72	27	211	40	45	20
成田	3,368	749	399	589	172	350	488	62	24	89	33
習志野	2,804	1,069	518	288	332	71	122	62	11	24	16

千葉県の外国人の特徴

- 外国人人口はいまなお増加
（09年末：116,958人、昨年より約3,000人増）
- フィリピン・タイはブラジル・ペルーより上位、インド・スリランカも8・9位（＝アジア系中心）
- フィリピン・韓国・タイは女性中心、農村部にも比較的定着（＝日本人配偶者）
- 南米人は八千代・市原・成田などに集中

②学習支援のプロセス

- 外国人・日本人代表のうちあわせ・日程調整
- 教員と学生サポーターのうちあわせ（必要なら事前勉強会も）
- 学生がシフト表作成、初級～上級毎に前回の報告書参照、指導計画・教材準備
- 現地集合・指導
- 学生の活動報告書作成・MLで回覧
- その他の作業（通訳・翻訳、広報、資金獲得等 ）

学習支援のあいまいな境界

- 従来の日本の外国人指導：通訳者への依存
- 日本語学習・教科指導は、ある程度できるようになった時点からは通訳なしで
- 通訳のプロフェッショナルティの必要性（行政文書、司法、警察、医療など）

③報告・日誌作成とフィードバック

- フィールドワークでは先行（文献）調査と調査結果の報告書作成を義務づけ
- 学習指導では教材準備・報告日誌（申し送り）を義務づけ
- いずれも学内にフィードバックして授業・会議で議論。調査・支援対象者にも礼状とともに送付

日本語クラス日誌の例

7月15日　初級4名（担当：斎藤・鈴木）

活動内容　（担当した生徒との勉強内容、授業名など　例：公文ドリル、3年生の漢字、数学、社会）

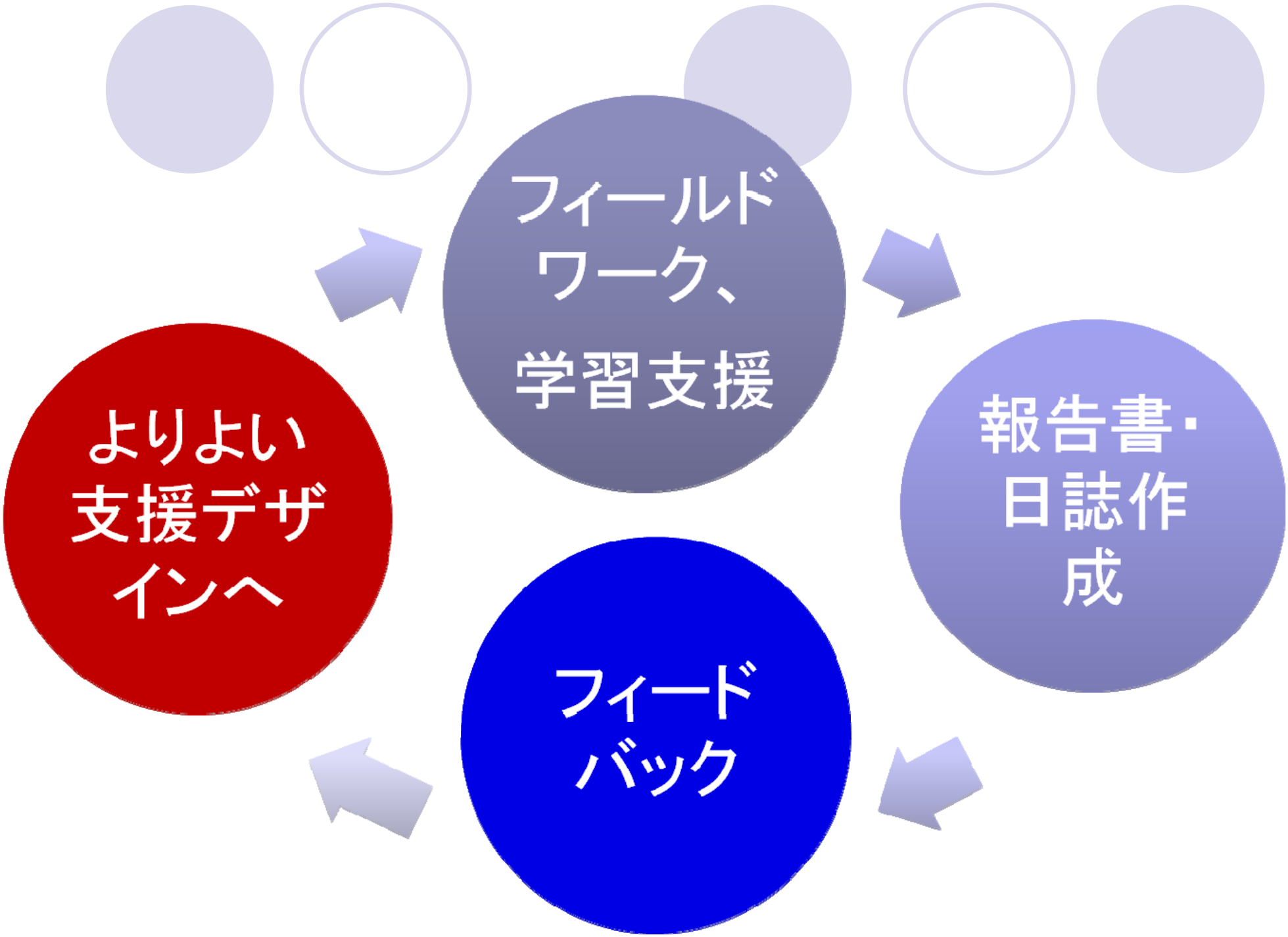
- 復習を兼ねて「あ行～は行」の発音をコーラス練習、その後、行ごとにひとりひとり発音してもらう。
- 「あ行～は行」まで、カードを使い、ランダムに答えてもらった。前回、順番通りにやると、その字がわからなくても、前後から推測できてしまう、という指摘があったため、今回はカードを使った。
- 一文字ずつ書き取りの練習。黒板に文字を書き、書き順などをチェック後、テキストに書きこみ。

難しかった点　（例：日本語の文法、教材の不足など具体的に）

- 前回、発音は順番で何となく分かってしまう、との意見があったため、50音が一文字ずつ書かれているカードを使って確認したが、文字と発音が結びつくまでには、もう少し時間がかかりそうだった。
- 初級の中でもレベルに差があるため、どう進めればいいのか、考える必要があると思った。
- 私たちが教授法で使っている教科書「みんなの日本語」は積み上げ式だが、学習者は日本語が0ではないので、どこまで理解しているのかが分かりづらいと感じた。

改善案　（例：2言語での数字の一覧表が必要、数学や理科の用語表が必要など具体的に）

- 分かっている人が退屈せず、また分かっていない人が諦めてしまわないような教え方を考える。
- 文字と発音を結びつけて覚えてもらうため、毎回カードで確認し、適宜テストをして定着を目指す。
- 会話の時間もきちんと設ける必要がある。会話の時間に、教えたことを書かせてみるなど、忘れさせないための授業が必要である。


フィールドワーク、学習支援
報告書・日誌作成
フィードバック
よりよい支援デザインへ

自立支援の原則と安全管理

- 支援は「自立」支援が原則
- 学生・支援対象者の安全（環境、セクハラ、過度な思い入れなど）
- お互いのプライバシー保護
- 場所の貸借、実費の収集・管理

4. 支援のデザインとコーディネート

①フィードバックによる支援の改善

②外国人をとりまくさまざまな主体とニーズ把握
（例：高齢者ボランティア「社会の役に立ちたい」、学生「スキルの向上・達成感ほしい」など）

③ニーズをマッチングし、主体間を連携させる「多文化社会コーディネーター」（杉澤2009）の育成